

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 一般国道40号 <small>なよろ</small> 名寄バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局												
起終点 自：北海道 <small>なよろ</small> 名寄市 <small>ほうえい</small> 豊栄 至：北海道 <small>なかがわ</small> 中川郡 <small>びふか</small> 美深町 <small>びふか</small> 美深		延長 19.5 km												
事業概要 一般国道40号は、旭川市を起点に、稚内市に至る延長約250kmの幹線道路である。名寄バイパスは、北海道縦貫自動車道と一体となり、道央圏と道北圏を結ぶ高速交通ネットワークを形成し、国土・地域のネットワークの構築、冬期交通障害の解消、物流効率化に寄与することを目的とした延長19.5kmの一般国道の自動車専用道路である。														
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">H1年度事業化</td> <td style="width: 25%;">H - 年度都市計画決定</td> <td style="width: 25%;">H5年度用地着手</td> <td style="width: 25%;">H5年度工事着手</td> </tr> <tr> <td>全体事業費 (暫定2車線)</td> <td>957億円 (812億円)</td> <td>事業進捗率 (暫定2車線)</td> <td>76% (91%)</td> </tr> <tr> <td>供用済延長</td> <td colspan="2"></td> <td>16.4km</td> </tr> </table>			H1年度事業化	H - 年度都市計画決定	H5年度用地着手	H5年度工事着手	全体事業費 (暫定2車線)	957億円 (812億円)	事業進捗率 (暫定2車線)	76% (91%)	供用済延長			16.4km
H1年度事業化	H - 年度都市計画決定	H5年度用地着手	H5年度工事着手											
全体事業費 (暫定2車線)	957億円 (812億円)	事業進捗率 (暫定2車線)	76% (91%)											
供用済延長			16.4km											
計画交通量 5,200～6,100台/日														
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">費用対効果分析結果</td> <td style="width: 15%;">B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.9</td> <td style="width: 30%;">総費用 (残事業)/(事業全体) 196/1,088億円 (事業費：175/1,024億円 維持管理費：21/64億円)</td> <td style="width: 30%;">総便益 (残事業)/(事業全体) 371/1,591億円 (走行時間短縮便益：345/1,441億円 走行費用減少便益：16/107億円 交通事故減少便益：10/43億円)</td> <td style="width: 10%;">基準年 平成19年</td> </tr> </table>			費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 196/1,088億円 (事業費：175/1,024億円 維持管理費：21/64億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 371/1,591億円 (走行時間短縮便益：345/1,441億円 走行費用減少便益：16/107億円 交通事故減少便益：10/43億円)	基準年 平成19年							
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 196/1,088億円 (事業費：175/1,024億円 維持管理費：21/64億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 371/1,591億円 (走行時間短縮便益：345/1,441億円 走行費用減少便益：16/107億円 交通事故減少便益：10/43億円)	基準年 平成19年										
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.1 (交通量 +10%) B/C=1.7 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=1.7 (事業費 +10%) B/C=2.1 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=1.8 (事業期間 +20%) B/C=1.9 (事業期間 -20%)														
事業の効果等 ・災害への備え（防災点検における通行規制等が解消される） ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる）														
他9項目に該当														
関係する地方公共団体等の意見 国際交流の推進、迅速で安定した輸送体系の整備、高次医療アクセスルートの整備、広域観光ルートの形成の実現に向けて、名寄市など2市5町1村の首長等で構成される期成会等より早期整備の要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成15年度までに北海道縦貫自動車道土別剣淵ICまでが供用。 ・平成18年度に道立広域公園サンピラーパークが一部開園。														
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成5年度より工事着手して、用地進捗率100%、事業進捗率76%となっている。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代前半の暫定2車線供用を予定している。														
施設の構造や工法の変更等 軟弱地盤における新技術の活用（強制圧密脱水工法）等によりコストの縮減を図っている。														
対応方針 事業継続														
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図 <div style="text-align: center;"> </div>														

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。